

教育的価値	題 材	教育課程
1【いきる】	人づくり講演会 「 命の重さを伝えるために 」 「 中学時代の生き方に大切なもの 」 他	総合的な 学習の時間

《生命の大切さ》

全学年 「命の重さを伝えるために」 二戸市在住 大崎 礼子 氏

当時小学校低学年の娘がいつものように集団登校していたとき、その列に車が飛び込んできた。多くの子ども達が重軽傷を負う中、大崎さんの娘さんは亡くなった。

「命の繋がり」 「命の大切さを学ぶ教室全国作文コンクール」官房長賞受賞
(前略)「命は大切だ、かけがえのないものだ。」と簡単に口にしてはいるが、私は「命」について全く真剣に考えたことがなかったのだという事を思い知らされた。それに大切な家族を失った人たちの悲しみや苦しみ、悔しさもだ。

被害にあった女の子はまだ小学校低学年、集団登校をしている際に車にはねられたのだという。

(中略) いつもと変わらない時間が流れていた。いつもと変わらない家族がいた。いつもと変わらない日常があった。そんな日常を一瞬で破壊してしまう家族の突然の死。(中略)「家族がいるのが当たり前」私はこう思っていた。両親には感謝することがたくさんある。父も母も、いつも私の心の支えになってくれる。(中略) 両親が支えてくれなかったら今の自分はいなかったのではないだろうか。

今、私は断言できる。「人は決してひとりではない」と。今の私は友達と繋がっている。先生と繋がっている。そして家族と繋がっている。(中略)

そんなかけがえのない繋がりを大切にしていこう、そして感謝の気持ちをしっかりと相手に分かるようにしていかなければならないということを、講演を聴いて改めて胸に刻んだ。そして「命」について、軽々しく口にしてはいけない、言葉では表現できない程尊いものであることが分かった。

これから私は、人と人との繋がりを大切に、人々に感謝しながら一日一日を大切に生きていきたい。

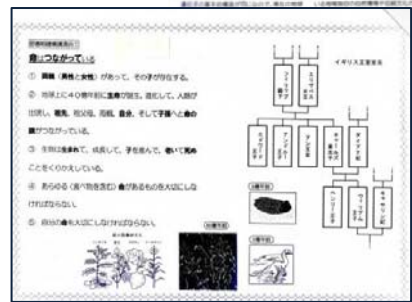
(2年女子)

1 学年 「命を大切にすること」 洋野町大野診療所 所長 中村晴彦医師

命の大切さを深く知ることができ、ずっと昔から生き物の命はつながっているという話をきいて、ああすごいことだなあと思いました。だから、これから自分の命をもっと大切にして、もっと命について考えていきたいと思えます。(1年男子)

私たちは、自分の「お父さん」「お母さん」がいたからこそ生まれてきたんだと言われたことが印象に残っています。祖先、自分、孫へと命の鎖でつながっているそうです。だから私は未来の自分の子どもや、自分の子孫のために、自分の命も大切にしたいと思いました。

いじめについては、いじめている人、いじめられている人、どちらも命を大切にしてほしいと思えます。人間関係を大事にして、これからの生活に生かしていきたいと思うこと、学んだことがたくさんありました。
(1年女子)



《心のあり方》

全学年 「中学時代の生き方に大切なもの」 県内某高等学校 野球部監督

「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」

「人生はブーメラン。投げた物はそのまま自分に戻ってくる」

「夢は逃げなかった。逃げていたのは自分だった」 ……

人生は思った通りにしかならないから、何も考えず行動するより、何か具体的な目標をもって行動したいと思いました。(略) (1年男子)



(前略) 私は夢の実現に向けての行動を起こすのは、もっと先のことで良いと思っていました。でも、その行動を起こすとはどういう事なのか、という事に今回の講演で気づき、いつ行動を起こすかは自分が決めることで、その「いつ」、は「今」、にできることがわかりました。私には将来の夢があります。しかし、口では言っているのに内心では「無理だ」と思っている節もありました。それは、自分の思いに行動がついていないからだとわかりました。だから私は夢に向かって直接走り出すのではなく、途中途中で目標を立て、少しずつステップアップしながら夢に向かって走っていこうと思います。(略) (2年女子)

(前略) 講演を聞いて、もう一度自分自身にできることは何か、自分が持っている夢を考え直しました。私はテニス部に入部してから「地区内で1位になりたい」という考えがありました。ですが、いつも準優勝や3位でいつも負けていました。その時は自分の精神力が弱いとしか思っていませんでした。講演を聞いてから、



私はそれを叶えるために何かを犠牲にしたのか。本当に全ての練習を全力でしていたのか、決意の心ができていたのかいろいろ考えました。そして「最後の中総体は悔しくて涙が出るほどだったのに、それをなぜ今の生活に生かしていなかったのか」という疑問に思いあたりました。だから私は高校でもテニスが続けようと思います。叶えたい目標を達成するために全力で。(略)

(3年女子)

2 学年 「集団づくり講座」 早稲田大学教育・総合科学学術院講師 小野寺 正己 氏

〔授業の流れ〕

イントロダクション

(活動のねらいとルール

・アイスブレイク)

活動① 「4つの窓」

活動② 「4面鏡」

大切な仲間とのコミュニケーションを上手にとるには、相手に関心を持ち、「知ろう」「わかって」とすることが大切であること。その根本は、実は自分をよく知ること(自己理解)が大切であることを学びました。



最後に

生徒達は一度だけでなく、同じテーマで何度か講演を聞いている中で、「生きる」ことについてさまざまなことに気づき次第に深く考えることができるようになってきた。今後は、気づき考えたことをどのように自分に生かしていくのかその生かし方について、身近なところから実践できるよう指導の工夫を図りたい。